

- 正義と悪は紙一重
  - 
    主人公の下人
    - 究極の選択
    - 仕事ない！盗人やるか？餓死するか？
  - 注目すべき点
    - 下人が正義感の強い人間として描写
    - 老婆の言葉 ⇒悪事を正当化
  - 心理の変化
    - 人間の善と悪の境界線
    - ⇒実は非常に曖昧である
- 三者三様の視点
  - 本作の特徴
    - 登場人物の各視点で「善悪」を描写
  - 
    生きるための必然悪
    - 死人の髪を抜く老婆の行為
    - 遺体の女性の生前の行為
  - 物語の時間軸は短い
    - 複数の視点を織り交ぜる
    - ⇒ 読者に深く考えさせる構成
- 平安文学の再構築
  - 原典
    - 平安時代の『今昔物語集』
  - 
    芥川による再構築
    - 普遍的なテーマ：人間の倫理観
    - 下人の心理描写や老婆との対話
    - 結末「下人の行方は、誰も知らない」